科目名	現代社会と法Ａ　　Modern Society and Law A						
科目担当者	雨宮 敬博　　AMAMIYA Takahiro						
単位数	２	配当年次	１年	授業形態	講義	開講学期	前期
履修学部・学科［区分］ 他学部他学科履修	法学部・法律学科［総合教育科目　人間形成］ 経営学部・経営学科［総合教育科目　人間形成］					ディプロマポリシーとの関連	(1)(4)
授業の概要	初回の授業の際に、どのような分野・項目についての関心が特に高いかのアンケートをとり、受講生の希望を最大限尊重しながら講義を進めていく。素案として示す「授業計画・内容」をも参考にしつつ、どのような分野・項目を重点的に学びたいかについて開講時までに検討しておくこと。						
授業の到達目標	①自分達の生活に身近な題材を通して現代社会と法とのかかわりについて興味をもって学んでいくことにより、法を身近なものとしてとらえることができるようになる。						

授業計画・内容		
	1	オリエンテーション（概要説明、アンケート）
	2	刑罰と法（死刑制度について）
	3	犯罪と法（正当防衛、緊急避難など）
	4	犯罪と法（暴行罪、傷害罪、脅迫罪など）
	5	経済活動と法（カルテル・談合、汚職の罪など）
	6	労働と法（労働契約、賃金、労働時間など）
	7	社会保障と法（健康保険制度など）
	8	医療と法（医療機関、医療制度改革など）
	9	財産と法（成年後見制度など）
	10	財産と法（法律行為、時効など）
	11	家族と法（親族の範囲、婚姻、離婚など）
	12	基本的人権の保障（法の下の平等、表現の自由、学問の自由など）
	13	国と地方公共団体（国会、内閣、裁判所など）
	14	学校事故と法（学校での事故や体罰に伴う法的責任など）
	15	まとめ

授業外学修 (事前学修)	ふだんから新聞等で事件や事故のニュースを読んでおく。 次回授業のプリントが配付済みの場合は、事前に目を通しておく。（毎回１時間程度）
授業外学修 (事後学修)	授業の際に配付する資料のプリントを読むとともに、演習問題のプリントを復習する。（毎回３時間程度）

成績評価方法・評価比率・到達目標との対応	成績評価方法	評価比率	到達目標との対応
	定期試験	100%	①

成績評価基準	秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合
教科書	なし
参考文献	必要に応じて紹介
その他	携帯・スマホ等の閲覧・操作や露骨な途中退出は、絶対にしないこと。 関心がある場合は、後期の「現代社会と法 B」をも受講することにより、更に幅広い法的知識を身につけることができる